



長崎丸山 はなまちマップ



まちぶらプロジェクト



絵葉書でみる 丸山風情

◀ 思案橋側から見た丸山の入り口「山ノ口」。江戸時代にあった二重門は明治5年に取り払われています。

丸山本通り。正面の山は▶ 風頭山。江戸時代、通りの石畳部は階段でしたが、人力車が走り出したことにより坂道に変わっています。



◀ 寄合町通り。左側の手前の建物は現在の丸山公園付近と思われます。各家々にはガス灯が並んで点けられていました。

絵葉書 長崎手彩色絵葉書 (ehagaki-nagasaki.com) 所蔵
昔の長崎の街並みを映し出した絵葉書をWEB (ehagaki-nagasaki.com) で閲覧できます

丸山の なりたち

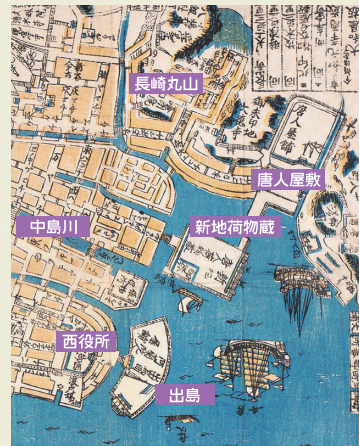
長崎丸山

丸山は寛永19年(1642)江戸幕府の命を受け、長崎市内に散在していた遊女屋を1ヶ所に集めたことに始まります。丸山はかつて日本三大花街といわれ、長崎の役人や博多や上方などの商人、さらには多くの文人墨客などの社交の場でありサロンとして内外に知られていました。

また、日本人のほかに唐人(中国人)やオランダ人も訪れていた国際的な花街でした。



肥前長崎丸山廊中之風景 (長崎歴史文化博物館所蔵)



肥前長崎地図 (長崎歴史文化博物館所蔵)



長崎手彩色絵葉書所蔵

はなまち 花街とは かがい

花街とは、芸妓(芸者)の踊りなどを楽しむことのできる店(料亭やお茶屋など)が集積している都市の一面をさします。丸山のよう、現在も歴史的な景観を残し、花柳界(芸妓さんの世界)が活きた花街は少なくなってきました。伝統的な花街は、芸妓を抱える「置屋」、場所を提供する「待合茶屋」、料理を提供する「料理屋」に、さらに芸妓の派遣を取り仕切る「検番」が存在するのが一般的ですが、長崎の場合は場所も料理も提供する「料亭」と「検番」が在存しています。

今も残る花街空間

表通りを1本入ると、曲りくねった路地が巡り、やや小ぶりの花街建築などが密集して残っています。

かつて待合、置屋、たばこ屋、すきやき屋であった建物があり、石畳や石垣の雰囲気もよく、いまでも花街の生活感が漂っています。長崎検番協の、梅園天満宮に続く梅園通りは、料亭花月の板塀が映える丸山随一のまちなみ景観スポットです。



長崎検番



芸妓は江戸中期の天明初年(1781)頃、大阪から長崎に入ってきたと言われています。明治時期には芸妓を中心とした花街文化が広がっていき、芸妓の派遣を取り仕切る組織(検番)として、長崎町検番、丸山東検番が創設されました。

昭和初期には、市内に7軒の検番(丸山には3軒)があり、数百名の芸妓が在籍していました。戦後に存在した検番も長崎町検番と丸山東検番だけで、昭和24年(1949)に両検番が合併し、長崎芸能会を発足。昭和52年(1977)に長崎検番と改称し、現在も花街の伝統を守り続けています。

花柳界用語の豆知識

- ◆御座付(おざつけ) お座敷に付いた時のごあいさつ。その土地や季節に応じた唄や踊りでごあいさつをします。
- ◆立方(たちかた) 踊りを踊る人。
- ◆地方(じかた) 唄/三味線/囃子(笛・小鼓・太鼓等)。
- ◆お茶を引く 芸妓さんがお客に呼ばれず、暇でいる様。暇な時間に石臼でお茶を引いたことから。

長崎の伝統 しっぽく 卓袱料理

江戸時代の長い鎖国時代にも、長崎だけは海を超えた遠い異郷の地とも接触を保ち続けてきました。その間にオランダやポルトガル、中国の料理を巧みに取り入れ和風にアレンジしたものが、長崎の誇る郷土料理、卓袱料理です。元来は、家庭でのおもてなし料理として定着したのですが、現在では長崎の伝統的な料亭料理となりました。

卓袱料理は、朱塗りの円卓を数人で囲み、大皿に盛られたお料理を直箸(じかばし)で取り分けて食べます。

(史跡料亭花月ホームページより)

- お献立
- 御膳 ●御飯
- 大鉢 ●香ノ物
- 中鉢 ●果物
- 小菜 ●梅乾
- 煮物
- ※一般的なメニューです



卓袱料理の作法 ~御膳(おひれ)をどうぞ~



卓袱料理は女将の「御膳(おひれ)をどうぞ」の言葉から始まります。鯛の胸鰭が入った吸い物を御膳(おひれ)といいます。これは「お客様お一人様に対して鯛一尾を使っておもてなしさせていただきます」という意味が込められています。

(史跡料亭花月ホームページより)

花街 ゆかりの地

うめその 梅園身代り天満宮



梅園天満宮は丸山町の鎮守神で、別名を身代り天満宮といい、当時、芸妓などの心の支えになっていました。芸能事などの奉納が盛んで、杜などで官許の芝居小屋が置かれ、芝居や見世物などが盛んに行われていました。

第二次世界大戦中、ここで祈願し出征した丸山町の住人は、すべて身代り天満宮のおかげで無事帰還していて、今でも身代りお守りは有名です。近年、秋の大祭で「丸山華まつり」が催され、賑わいをみせています。

きょくせん 玉泉神社

玉泉神社は寄合町の鎮守神としてお祀りされ、花街の中に位置していたこともあり、夕刻の参詣者が多く、特に祭事は芸妓などの奉納踊りで賑わっていたといいます。現在、秋の大祭では子供神輿で賑わっています。



中の茶屋(市指定史跡)

当時、中の茶屋には内外の文人墨客などが訪れ、大いに賑わい、丸山を代表する茶屋(料亭)となります。長崎奉行の丸山巡検の際には休憩所にも充てられていました。昭和46年(1971)建物が類焼し、庭園のみとなりますが、昭和51年(1976)に建物が再建され、現在は長崎市清水崑展示館として、市民に公開されています。

寛政2年(1790)に奉納された手水鉢には、筑後屋のお抱え(所属)の遊女「富菊」の銘を見ることができ、当時の人気を物語っています。



ゆかりの人物

坂本龍馬

土佐藩出身の幕末の志士。長崎でも亀山社中を設立するなど活躍。花月など丸山にも足を運んでおり、「イカルス号事件」などの解決にも尽力しました。写真は丸山公園に建立されている坂本龍馬の銅像。



愛八

名妓といわれた丸山の芸妓。大正から昭和初期に活躍し、愛八が唄った「ぶらぶら節」、「浜節」は有名。なかにし礼の小説「長崎ぶらぶら節」の主人公。

